

～表紙絵の植物紹介～

交流の家を彩る秋の野の花の一つに、ツリガネニンジンがあります。鐘形で淡い紫色の可愛らしい花を咲かせます。



ツリガネニンジンには「大切な思い出」という花言葉があります。様々な野の花に囲まれた秋の赤城で、大切な思い出を作っていたらいいと思います。

(文・岡)

交流の家の取組紹介

【「育つ力・はぐくむ力」をめざして】

最近、様々な研究で、IQや学力といった「認知能力」だけでなく、根気強さ、意欲、社会性といった、「非認知能力」を幼児教育の段階で身に付けられるかどうか、大人になってからの活躍に大きな影響を与えることが分かってきました。今、人生100年と叫ばれている時だからこそ、幼児教育への期待が一段と高まっています。

今回、改訂した教育要領等は、育みたい資質・能力を明確化するともに、幼児期の終わりまでに育ってほしい具体的な姿を明確にし、小学校と共有することにより、幼小接続していくことが求められています。



日常の遊びや様々な体験を通して、幼児が発達していく姿や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を念頭に置いて捉え、一人一人の発達の特성에応じて、必要な体験が得られるような状況をつくらせたり、必要な援助を行ったりするとともに、成長と課題を認識して教育要領等が示す教育へとつなぐことが重要です。

そこで1月に行われる事業では、1日目に幼児の運動プログラム体験会で、実際の場で遊んでみたり、段ボールで場作りをしたりします。2日目に、シンポジウムで講師陣と共に学びを深めていきます。ぜひ、参加してみたいかがですか。(田村(文))



重要なお知らせ

日頃からカラゴロリをご愛読いただきまして誠にありがとうございます。春号vol.38から、ホームページを中心に掲載することとなりました。

郵送をご希望の方は下記アドレスまでお名前・住所をお送りください。(E-mail:akagi@niye.go.jp)お手数をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。



←QRコードからもご覧いただけます。

次号は、1月4日発行予定!

体験の風をおこそう

「交流の家HP」「Facebook」で当所の情報を更新中



国立赤城青少年交流の家 <https://akagi.niye.go.jp/>

TEL:027-289-7224 (9:00~17:00) FAX:027-289-7226

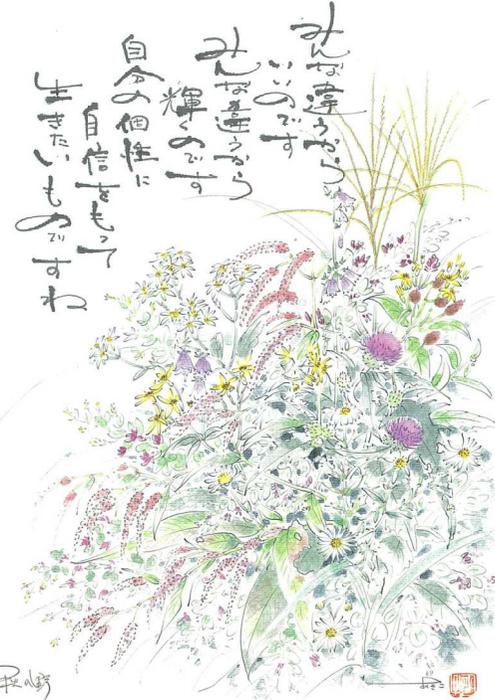
あかぎ カラゴロリ

検索

〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山27 E-mail:akagi@niye.go.jp

風と太陽のくにからの通信誌

カラゴロリ



『平成30年度上半期を振り返って』

平成30年度も上半期(4月~9月)が終わり、下半期に入りました。

上半期は80,196人の皆さんに宿泊頂きました。都市部に近いという立地条件のため、たくさんの方に宿泊頂いてますが、時に厳しいアンケートを頂いていることも事実です。職員一同アンケートの言葉に真摯に耳を傾け、できることからコツコツと改善していきたいと思っております。

社会教育実習生が赤城で実習しました。富士見中学校からも5人が職場体験をしました。学生に指導をすることによって職員も気づくことがあり、職員にとっても良い機会を与えて頂いていると思っています。

一度に大きなことを成そうとするのではなく、昨日の反省、今日の実行、明日の計画、この三日間を確実に繰り返すことをモットーに施設を運営したいと思います。

また、上半期は、日本女子大学と文教大学から6人の

所長 松村 純子

限界突破キャンプ

8月4日(土)～11日(土)に「限界突破キャンプ」を実施しました。参加対象は、小学校5・6年生、中学校1・2年生で、関東5県から21名の参加がありました。



7泊8日の移動型キャンプで、登山・自炊などの活動を、仲間と共に、最後までやり抜くことを通して、何事にも自信を持って取り組める力を育むことがねらいです。「挑戦・協力・感謝」の3つのテーマのもと、黒檜山から榛名富士まで徒歩で移動し(総距離約70km、標高差約3000m)、登山、テント設営、野外炊事、寝袋での就寝など、自然や仲間と触れ合いながら体験活動を行いました。



また、1週間を通して、体調を崩さず、規則正しい生活を送るために、「あいさつ・食事・うんち」の3つに気をつけました。特に登山中では、すれ違う登山者の方々へ元気よくあいさつを行い、「とても元気をもらいました」とうれしい言葉をかけてくださった登山者の方もいらっしゃいました。参加者もその言葉を聞いて、ここにこそ笑顔になり、こちら側も元気になっている様子も見られました。

参加者のアンケートには、「登山はつらく大変でしたが、頂上に着いたときの景色がきれいで、足の痛みを忘れてしまいました。」「友達と協力することの大切さを知ることができたので、これからの生活では、友達とたくさん協力して、もっと良い仲にしていきたいと思いました。」「規則正しい生活をするので、生活習慣がもっとよくなると思いました。」「これからは何事にもあきらめない」等の感想がありました。(文：小倉)

これからの動き

下記の事業の詳細はこちらまでお問い合わせください
TEL：027-289-7224(国立赤城青少年交流の家)。ホームページにも随時掲載します。

■「イングリッシュアドベンチャー」(小5対象)文科省委託事業
11月24日(土)～25日(日)
1泊2日

前橋市のALTを講師に迎え、赤城の自然の中で、英語を使いながら体験活動を行うことで、英語を使ったコミュニケーションと体験活動の推進を図るプログラムです。

■「体験の風をおこそう」フェスティバル2018
12月1日(土) 10:00～15:00

箸づくりや繭クラフト・缶バッチづくりなど、わくわくする体験ブースが盛りだくさん！参加費は無料です。
場所：スマーク伊勢崎
お問い合わせ先：027-289-7224
主催 群馬県からっ風「体験の風をおこそう」運動実行委員会

■「育つ力・はぐむ力」をめざして～三法令改訂(定)後の保育実践・幼児期の体験活動の重要性の理解～
1月11日(金)～12日(土)
1泊2日(幼児教育関係者等対象)

三法令改訂(定)後の保育実践と幼児期の「体験活動」の重要性についてシンポジウムを開催します。

イングリッシュキャンプ

8月12日(日)～8月14日(火)の日程で「イングリッシュキャンプ」を行いました。この事業は中学校1・2年生を対象とし、外国人講師と一緒に楽しみながら、英語をコミュニケーションの手段として用いました。そして、野外炊事やオリエンテーションなどの活動を体験することを通して、英語を聞いたり話したりすることに自信をもち、英語への関心を持てるようにすることを目的としました。

アイスブレイクの活動では、二人の講師が自己紹介をしました。その中で、出身国について写真や実物を使いながら、英語で説明したり、クイズを出したりして、参加者と楽しく活動することができました。スピーキングの活動では、野外炊事や館内ラリーで使える英語の表現を楽しみながら覚えていきました。そして、野外炊事のカレー作りや館内ラリーでは、グループで英語を使いながら活動することができました。また、体験を通して、参加者同士の絆も強めることができました。リスニングの活動では、「L」と「R」の違いなどの聞き取りづらい発音を講師の発音を聞きながら、楽しく学ぶことができました。最後に、参加者同士で発表を行いました。テーマは、「日本の文化を紹介しよう」です。班の仲間と協力しながら、英語の文章を書いたり、演出を考えたりすることができました。



参加した中学生は、学校の授業とは違う英語を使った活動を体験し、英語への関心を高めることができました。

(文：横山)

利用者みなさま

7月・8月は以下の団体・学校の方から心温まるメッセージをいただきました。

- ・前橋市立細井小学校 様
- ・流山市立新川小学校 様
- ・東京都東村山市立東村山第一中学校 特別支援学級1組 様
- ・千葉県柏市立柏第六小学校 第5学年 様
- ・御殿場市青少年チャレンジ体験事業実行委員会 様
- ・千葉県柏市立手賀東小学校(5・6年) 様
- ・ボーイスカウト松戸9団カブ隊 様

全てのメッセージは紙面の都合上、ご紹介できませんので、一部をご紹介します。千葉県柏市立柏第六小学校の児童さんからは、「最初は上手く出来なかったことも話し合えば目標を達成することができました。」「最初のころは1人でやったり2人で話したりしていたけど最後はみんなで声をかけ合っでなんとカクリアさせようという気持ちを持つことができた。普段の学校生活でも声をかけあって、よりよい学校やクラスにしたい。」という感想をいただきました。



交流の家での活動が皆さんのこれからの生活に活かされることを職員一同願っております。(いただいたメッセージは所内に掲示させていただいています。)



国立赤城青少年交流の家で活躍する、非常勤講師やボランティアの方が交流の家の魅力を紹介します。

【ボラミックスキャンプ参加報告】

8月27日から29日に国立妙高青少年自然の家で開催されたボラミックスキャンプに参加しました。ボラミックスキャンプは全国各施設の法人ボランティアとの交流を通して、各施設の現状と課題を共有し、各施設のボランティア活動の活性化につながる活動を行うことを目的に、毎年開催されています。

「ここから赤城を始めたい。」そんな思いを胸に参加したボラミックスキャンプは、新しい体験が目白押し企画でした。まだ法人ボランティア歴の短い私にとって、他の参加者はみな先輩と呼べる存在です。その先輩方が共通して行っていたのは「自主企画」と呼ばれるものでした。この言葉は私にとってこのキャンプを象徴するものとなりました。



今までの私にとってボランティアとは、求められたうえで参加するものでした。そこにこんな概念が入ってきたのだから、一種のカルチャーショックです。自分たちでやってみてもいい。このことに気付けたのは大きな収穫でした。

とはいえ、いきなり自主企画を行うことはできません。まだまだ課題は山積んでいます。今回のキャンプでは自分の力不足を感じるとともに、次の目標も見えてきました。一歩ずつ進んでいって、いつか、とびっきり面白い企画で参加者を笑顔にしたいです!

(文：山本 周吾(法人ボランティア))

2019年4月1日(月)～2020年3月31日(火)一般予約受付開始

来年度の2019年4月1日(月)～2020年3月31日(火)期間の申込み受付開始します。

以下をご確認いただき、お申し込みください。

- ・受付期間
平成30年10月1日(月)午前10:00～平成30年10月5日(金)午後3:00まで(以降は、通常通り受付いたします。)
- ・申込方法
ホームページ上の専用募集フォームのみです。
※一般予約受付後、自動返信を行いますので akagi-suishinn@niye.go.jp が受信できるようにしてください。

※一団体が複数回の予約をされた場合、公平性を期すため、他の団体のお申込みを優先させていただきます。

- ・申込留意点
- ① 国立赤城青少年交流の家のホームページの専用募集フォームで申し込んでください。
- ② 休館日及び満館日がございます。「空室状況」については、ホームページをご確認ください。
- ③ 希望期間の欄は、第1希望から第3希望までご記入をお願いいたします。
- ④ 宿泊利用予定の人数には、引率・指導者とバスのドライバー、添乗員等の人数も全て含めてください。
- ⑤ プログラムが決定されていないと他の団体の活動が優先されます。また、来年度の場所等の調整時には、予約完了時の活動プログラムが優先されますので、ご了承ください。

詳しくは、HPをご覧ください。(文：丸山)